

# 平成28年 日本建築士会連合会賞

## 審査総評

昨年度より審査委員に加わった中谷礼仁氏を含む8名の審査委員により審査が執り行われた。

全国21建築士会に所属する会員より92点(昨年89点)の応募があった。建物種別の応募点数と応募数全体における割合は、住宅(共同住宅含む)45点48.6%、施設(学校・研究所・医療等)29点31.5%、事務所・店舗等18点19.6%であり、昨年度とほぼ変わらない応募状況であった。

1次審査を2016(平成28)年4月19日に行った。92点の作品から各人10点の作品を選び、3点以上をとった作品17点——富久千代酒造酒蔵改修ギャラリー、箕郷町の家、GATE SQUARE小杉陣屋町(THE KAHALA小杉陣屋町・THE RESIDENCE小杉陣屋町)、今井町の家、熊本県立かがやきの森支援学校、ATグループ本社、デンカイノベーションセンター本館、多世代交流モール、千本の家、地下2階地上2階の家、立命館大学大阪いばらきキャンパス、サントリーワールドリサーチセンター、MIZKAN MUSEUM、早稲田小劇場どらま館、愛知県立芸術大学音楽部校舎、G.Itoya(銀座・伊東屋)、遊行寺地蔵堂——を現地審査対象とした。さらに、3点以下の作品で特に審査員が強く推薦した作品の討議を行い、全員賛同を得て、龍が昇る家、灘中学校高等学校(耐震改修および増改築)、高齢者施設の3点を加えて、20点を現地審査作品とした。なお、書類審査に当たり、新居千秋氏の設計した新潟市秋葉区文化会館は日本建築学会作品選奨をはじめ数々の賞を得ている作品であり、社会的評価が十分浸透しており、審査員全員の決断として審査外としたことをお断りしておきます。

5月27日より7月15日の間に、委員2名以上のチーム編成で現地審査を行い、7月22日8名の審査委員全員出席のもと、最終審査を行った。各委員の講評を基に討議を行い、優秀賞、奨励賞に該当する作品であるか否かをその段階で概ね決めていった。その結果、住宅(共同住宅含む)ではGATE SQUARE小杉陣屋町、箕

郷町の家、地上2階地下2階の家、今井町の家、龍が昇る家の5作品、施設では灘中学校高等学校(耐震改修および増改築)、サントリーワールドリサーチセンター、熊本県立熊本かがやきの森支援学校の3作品、事務所・店舗等では多世代モール、富久千代酒造酒蔵改修ギャラリー、G.Itoya、遊行寺地蔵堂の4作品を選び、改めて討議を行い、優秀賞5作品、奨励賞7作品を決定した。

各作品の審査講評は現地審査に携わった審査員に委ねるが、13点の現地審査に同行した1人として今年度の会員作品展を総括すると、現地審査の重要性を改めて認識したことである。

灘中学校高等学校1次審査では審査員1人の票が入ったのみであったが、審査員1人の強い推薦で現地審査対象作品となり、このたび優秀賞を受賞された。耐震改修と増改築を、仮校舎を設置することなく遂行したと同時に、緻密な企画力とデザイン力によって、もともとあった1号館の外観を損なうことなく新たな息吹きを生み出したこと、また、1号館と2号館の間のスクエアに大階段を設け、上階の広場と立体的につなげるとともに、1号館の最下階の教室をモール化して本館の中庭と視界が広がる空間を生み出したことである。西館を増築し、スロープを設け1号館2階へとつながるアプローチも見事である。現地を見てはじめて理解できた作品の1つである。また、GATE SQUARE小杉陣屋町は、陣屋の精神、街の記憶、歴史とともにあった緑の継承が巧みであり、土地の精神・思いを継承する集合住宅として、これからの街のあり方を暗示する作品である。樹木の移植、中庭のスケールなど見るべきものが多い作品である。今井町の家は、重要伝統建造物群保存地区に建つ住まいの耐震化工事と内外部の改修工事である。保存地区の建造物の耐震化を促す重要な役割を担っている。この地区を視察して、改めて群の大きさと、これからのすべき課題の多さを知ることができた。

作品審査委員長 村松映一